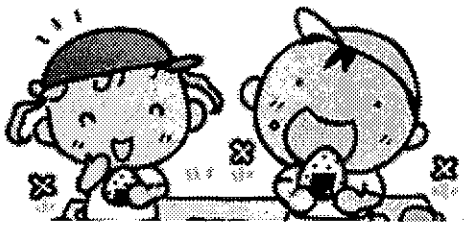


ネットで秋厚労ニュース　ID shukouro
http://www.shukouro.net/　パスワード 0188643341

秋厚労ニュース

メール syukoro-kyosen@w3.dion.ne.jp

NO1782号
2017年8月3日
秋田県厚生連労働組合
秋田市山王5－4－2
TEL 018(864)3341
FAX 018(864)3349

病院給食 作られた人手不足

第二期経営改善計画で 給食の充実を掲げているが

秋田県厚生連は「第二期経営改善計画（H26～H30）」の中で「給食の充実」を掲げています。しかし、「委託化」の姿勢は崩しておらず、真の意味で給食が充実するかどうかは疑問です。

秋田県厚生連「第二期経営改善計画」アクションプラン「給食の充実」より

現状での課題（現在のレベル）	入院中の給食は治療の一環であるとともに、患者の楽しみの一つでもあり、その内容の充実が満足度のアップにも直結することから、患者サービスの向上のためには、給食の更なる充実に取り組む必要がある。 また、経営改善を推進する中で、これまでも費用の削減を図りつつ給食の内容充実に努めてきたところであるが、患者からの評価については統一的な視点からの把握をしておらず、給食の充実については会を挙げての具体的な対策を講じるまでには至っていない現状にある。
目標達成に向けた具体的取組み事項	①栄養科技師長会議の定期的開催による情報共有・対策検討 ②給食上限単価の引き上げ等による内容の充実 ③アンケートによる利用者満足度の把握 ④モニター等を活用した客観的意見の把握

自己犠牲とも言えるスタッフの仕事愛・患者愛

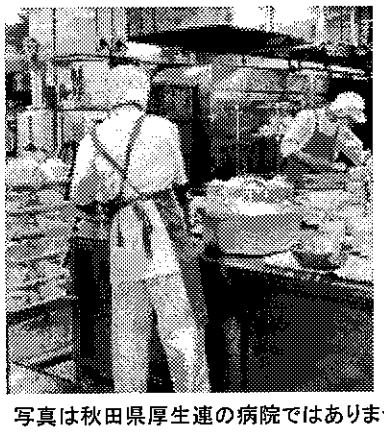
言うまでもなく病院給食は「治療食」。食は、人間生活の根幹であり、「生きる意欲の源」です。栄養科のスタッフは、「早番明け」を利用して山菜を採り、厳冬期に大根を寒風にさらし、地元のお年寄りから郷土食を学ぶなど、自己犠牲とも言える努力をして患者さんに「食事」を提供しています。労働組合としてはあまりお勧めできませんが、自分の時間を使うこともしばしば。受託業者では決して真似のできない「仕事愛・患者愛」がそこにはあります。患者さんから栄養科に届く「お礼の手紙」は、そんなスタッフの「思い」が伝わった証しです。

全く同じ労働なのに 低賃金、退職金ゼロ

問題は、そのような涙ぐましい努力をしているスタッフに対して、秋田県厚生連の経営者が、長年、きわめて非人道的な仕打ちをしてきたことです。

日本の医療政策が「医療費抑制・市場化」に大きく舵を切った1980年。全国厚生連は「委託・外注化」を推進し、秋田県厚生連もこれに同調しました。

給食調理部門で言えば、正職員を採用せず、臨時職員の割合が増えていきます。早番・遅番などの勤務シフトや仕事内容は正職員とまったく同じ。しかし、賃金は低く、ボーナスもほとんどありません。以前は、毎年何人かは臨時職員から正職員に引き上げられていましたが、2001年頃を境に、それもなくなりました。「正職員になる道筋を絶たれ、何十年働いても退職金もない」という状況を想像してみてください。



写真は秋田県厚生連の病院ではありません

病院給食をつくる仕事は緻密な重労働

病院給食をつくる仕事は緻密な重労働です。家庭や小飲食店では経験できない大量の食事を、どんなトラブルがあっても、決められた時刻までに作らなくてはなりません。病状や嗜好に合わせた個別対応もかなりの数。厳しい仕事の上、労働条件が非常に悪い訳ですから、長続きせず、離職する人が多いのもうなずけます。最近は、ハローワークでも評判が悪く、応募者も減少。当然のことながら、現場はますます厳しくなり、恒常的な人手不足です。

経営者はこの「人手不足」を「委託」の理由にしていますが、秋厚労は「経営者によって意図的につくられた人手不足」であると主張しています。

人件費・食材費 委託で上がるの？

給食の受託業者は、「委託料」の中から「人件費・食材費」を払った上で利益を得ます。秋田県厚生連の経営者は「委託によってコストが減る」と言っているくらいですから、委託料は低く抑えたいところでしょう。だとすれば、受託業者は、「人件費・食材費」にお金をかける余裕はないはず。つまり、「働き手の確保」も「食材」にも期待はできません。

「経営改善計画」では、患者さんの自己負担値上げも示唆していますが、そんなやり方で「給食が充実」するかどうかは疑問です。